

## 1 1. 5 なづけるアンケート抄—Q. 私の聞いた伝説—

Facebook & Twitter (現X)「とある民俗学講師 (の補足メモ)」

- \* 「伝説」のあいまいさ: 「言語芸術」と「心意現象」のあいだ、「呪術」「儀礼」「信仰」「歴史」「文芸」などの隣接概念
- \* 「伝説」の伝承経路: 口承、書承、ラジオ、テレビ、ネット…
- \* 「伝説」と「都市伝説」: 対象物の浮遊性、話者 (伝承者) の非限定性、マーケティングへの回収
- \* 「伝説」は「生活世界」を「なづける」: 「伝説」は事実ではないが「伝説が伝えられていること」は事実

【伝説?】私が通っていた東山区の中学では、セーラーのリボンが短いと近くに嫁に行き、長いと遠くに嫁に行くことになるという伝説があった。私はその伝説を信じ、遠くに行くことがないよう、セーラーを短く結んでいた。

【岩】私が住んでいる福井市清水山下町には、池鯉鮒神社という神社があり、そこに雨乞いの岩と呼ばれる大きな岩が祀られています。この岩を動かす／岩の上に乗ると雨が降るといふ言い伝えがあり、神社の改装工事の際、この岩をクレーンでつりあげたところ、急な大雨が降ってきて、作業が予定通りに進まなかったそうです。そういう話を祖母や母から聞かされていたので、小学生の頃、マラソン大会とか、雨が降ってほしい日の前日には、必ずこの神社に行って岩に乗っていました。邪な気持ちでは叶えてもらえないのか、一度も雨が降ったことはありませんでした。

【いわざらこざら】香川県の仏生山にあるちきり神社付近にある平池は、1178年に改修を行なった際、堤の決壊に悩まされ、この解決のため神のお告げにより「ちきり」という娘が人柱にされた。池は無事改修されたが、いつしか堤の隙間から水が漏れ出し、それが「いわざらこざら」と聞こえたそうだ。「言わなきゃよかった、来なきゃよかった」という意味で、ちきりの声とされている。今は隙間はなく、付近に乙女の像が祀られている。祖母は像の近くを通ると決まって「乙女の像が見えたよ。いわざらこざらってどういう意味か分かる?」と尋ねてくるので、小学校の頃から知っていた。

【片身のスズキ】昔、愛知県豊橋市の漁師五郎が、長く魚の釣れない日が続いた末に大きなスズキを釣り上げ、殿様に献上した。ところが城で刺身にされそうになったスズキは、片身のまま豊川へ跳ねて逃げ、その後、川の主になった、と祖母が自分 (5歳) に教えてくれた。川に一人で近づくと襲われて危ないから川には近づいてはいけないと教えられた。

【橋】小学校時代友達から聞いた伝説。私の地元豊中市本町には「夜中に千里川にかかる橋を渡ると、橋の下から名前を呼ばれる」という噂がある。呼ばれて振り返ると川に引き込まれるという。実際に被害を見た人はいないが、子どもの頃は皆この話を本気で信じ、夜にその橋へ近づくことを避けていた。この伝説は、危険な場所に子どもが近づかないようにするための教訓だったのかもしれない。今では迷信だと分かっているけど、夜に橋を渡ると少し思い出してしまう。

【塚】東山にある耳塚では、お化けが出るそうです。小学校の遠足で耳塚に行って、そのことを母に報告した時に教えてもらいました。マジで出る、と言っていました。耳を埋められた人の怨念の化身かと思います。

【地藏など】私の住む岡本の近くには、昔西国街道が通り、その道を歩いて行くと四つ角の右手に大きな顔が現れます。「花松くび地藏 (通称くび地藏)」といい、街道を往来した人たちから、首から上の病気にご利益があると崇められていたそうです。このお地藏様は震災で倒壊した際にも再建されました。私はこの話を小学校の郷土に関する授業で知りました。

【河童】小学校の時、実家 (名古屋市) の近くの公園にある川で河童が出るという噂を聞いた。私と弟はそれを確かめようとキュウリを持って探しに行ったが、姿を捉えることができなかった。ただ、見たと言っている友達もいたので本当に

いたのかもしれない。

【キジムナー】幼稚園のころ、キジムナーの伝説を聞いた（沖縄県那覇市）。家族や幼稚園の先生から聞いたと思われる。キジムナーは精霊・妖怪の一種で、赤い髪で子供の姿をしており、ガジュマルの木に生息しているといわれている。いたずら好きで、人間にとって良いこともすれば悪いこともするとされている。一度キジムナーを怒らせると恐ろしい報復を受けるため、キジムナーが嫌いなことやキジムナーを虐げるようなことをしてはいけないと言われた。

【徐福】徐福は、秦の始皇帝の命により、不老不死の仙薬を求めて日本に来たとされ、全国各地に伝説があるらしいが、そのひとつが熊野市の波田須町に上陸したという説である。実際に波田須町には徐福の宮という社が今でも残っている。市のホームページでは「徐福は帰国を断念して紀州への永住を決意した」「不老不死の仙薬こそ当地に自生する天台烏薬」といった内容が書かれている。私が小学校で聞いた授業では「波田須町に上陸した徐福は波田須町の自然の豊かさや人々の暮らしこそが不老不死の薬なのだ」と悟り、永住することにした」といったアバウトな内容に脚色されていた。

【心霊スポット】嵯峨嵐山の奥に位置する心霊スポット「清滝トンネル」の話聞いた。トンネル手前の信号が青だったら霊に呼ばれているという話や、奥の直角に曲がったカーブミラーに映った自身の顔が死ぬ時の顔である話などが有名だ。今年の夏、私の友達の友達のカップルが深夜に訪れたらしく、車中で撮影した写真にガッツリと女性の顔が後部座席に映っているのを見せてもらった。今まで見た中でもダントツに気持ち悪い心霊写真で、本気で怖かった。絶対行きたくない。

【破局スポット】井の頭公園（東京都三鷹市）の池の話。小学生のころに友達から聞いたり、後にインターネットの記事を読んだりして知った。井の頭池には弁財天という水の神が祀られており、昔から強い力を持つと信じられてきた。池でカップルがボートに乗ると、弁財天の嫉妬によって別れてしまう、と言われている。今でも若者の間で語り継がれている。

【Me too】中学生のころ、面白おかしい話として友人から教えられた。仕事でニューヨークを訪れた男性は、同僚から「同性愛者が多いから気をつけろ」と冗談交じりに忠告され、万一迫られた場合は「I am AIDS」と言えばよいと教えられる。安心して渡米した彼だったが、公衆トイレで屈強な男性に背後から抱きすくめられてしまう。とっさに教えられた言葉を叫ぶものの、相手は動じることなく答えた。「Me too」。恐怖と皮肉を含むこの話は、差別的価値観を内包している。

【テケテケ】京都市伏見区にある小学校に通っていた私が最も震え上がったのは、テケテケである。小学4、5年の頃、6年の先輩から聞いたという同級生に教わった。テケテケは、電車で轢かれ下半身を失って亡くなった上半身だけの少女の霊で、夜1人で歩いていると、腕だけを使って高速で追いかけてくる。YouTube上にある一本の動画がその存在の「証拠」として伝えられており、「内緒だぞ」とかいいながら3DSなどで見せられるのである（私も別の同級生に見せた）。当然フィクションだったわけだが、当時の私を信じさせるには十分で、塾帰りが10時になることも多々あった私は、駅から家まで、なるべく強そうなおじさんにピッタリついていくという戦略をとり恐怖を抑えていた。

【大学伝説】私は同志社大学今出川キャンパスでキャンパスツアーガイドというアルバイトをしている。研修で、同志社史資料センターの職員の方から、キャンパス内の重要文化財に関する言い伝えをいくつか聞いた。その一つが「ハリス理化学館の手すり」伝説。ハリス理化学館はイギリス風のレンガ造りの建物で、1890年に竣工したが、完成の半年前に同志社の創設者新島襄が亡くなった。そこから「ハリス理化学館の階段の手すりには、新島の柩を担ぐときに使った台の木材が使用されている」と言われるようになった。現在では話が膨らんで「手すりに触ると同志社に受かる」とまで言われている。ツアーに来た中高生にこの話をすると興味を持ってもらえるし、最後に「手すりを触るより赤本を触った方が受かる」と言うとなんか笑い取れるので、私自身もよく話している。